	取組項目	市民の生命を守る救急体制の充実
現状・課題		 新型コロナウイルス感染症の患者等の救急搬送・移送協力に必要となる感染防止資機材の備蓄が不十分である。 ・当局管内の救急出場件数は、平成21年以降11年間連続して増加し続けており、昨年は5万7,933件と過去最多となった(一昨年比263件増加)。このままさらに救急需要が増加し続けると、真に必要な傷病者への対応の遅れが懸念される。
取組みの 内 容		 ・救急隊などの感染防止対策を強化するため、感染防止資機材備蓄計画を定める。 ・まちかど救急ステーション事業を民間施設に拡大し、登録施設数を増加させる。 ・救急出場件数の増加傾向を分析し、必要に応じて救急隊の増隊及び適正配置等を行い、救急体制の充実を図る。 ・救急車が到着するまでの間に市民等により応急手当が施され、救命につながるよう、市民に対して各種救命講習を実施するとともに、救急安心センターおおさか(#7119)などを広く普及啓発し、限りある救急搬送資源を緊急性の高い事案に優先的に投入できるよう、予防救急事業を推進する。 ・祭礼時や年末年始など救急需要が増加すると予測される時期に、あらかじめ臨時救急隊を増隊配置する他、突発的に救急需要が増加した際には、直ちに臨時救急隊を編成する体制を構築し、救急要請に対して傷病者への対応が遅れないよう対策する。
スケジュール	前期 (~7月)	□ 令和2年度臨時救急隊編成計画の策定(4月) □ 南海バス車内放送による救急安心センターおおさか(#7119)の案内(4月) □ 患者を隔離して搬送するための資機材「アイソレーター」納入事務手続きの実施(5月) □ 防災協会の全会員へ、まちかど救急ステーション事業の参画を案内(7月)
	中期 (~11月)	 □ 感染防止資機材備蓄計画の策定(9月) □ 泉北高速鉄道車内広告による救急安心センターおおさか(#7119)の広報(9月) □ 祭礼時に臨時救急隊を編成(10月) □ 患者を隔離して搬送するための資機材「アイソレーター」の配備(10月)
	後期 (~3月)	□ 年末年始に臨時救急隊を編成(1月) □ 市民に対する各種救命講習を5,000人以上実施(3月) □ 駅、ホテル、スポーツ関連施設など不特定多数の方が利用する場所に個別訪問し、まちかど救急ステーション事業の参画を案内(3月)
	次年度 以降	□ 感染防止資機材備蓄計画に基づく資機材の納入・備蓄(年度計画)